

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
推進校実施報告書

- 1 学校名：甲佐町立甲佐中学校
- 2 実施日時：2017（平成 29）年 12 月 14 日（木）10：00-12：30（生徒対象）15：00-16：30（教員対象）
- 3 対象：全校生徒 230 名、甲佐町の公立校（小・中・高）教員 20 名
- 4 派遣パラアスリート：鈴木朋樹さん（パラ陸上競技（車いす陸上）パラ世界選手権（2017）800m 第 5 位）
- 5 事業内容：講演

2017（平成 29）年 12 月 14 日（木）に、甲佐町立甲佐中学校にて、パラ世界選手権（2017）の陸上競技 800m で第 5 位に入賞した鈴木朋樹さんが、講演されました。午前には、全校生徒、午後には、甲佐町の公立校（小・中・高）に務める教員を対象にお話しされました。鈴木さんは、生後 8 ヶ月時の交通事故によって脊髄損傷となり、物心がついたときから車いすでの生活をされていたそうです。また、小中高と普通校に通い、健常者の児童生徒たちと海や山で遊ぶアクティブな子供だったようです。そして、小学生の頃、親のすすめで横浜のクラブチームの練習見学に行ったことがきっかけとなり、車いす陸上を始められたそうです。

午前には、甲佐中の全校生徒を対象に、「夢を見つけること」というテーマで講演されました。講演では、主に師匠との出会いと車いす陸上を通して学んだことについてお話しされました。

鈴木さんは、車いす陸上を始めたその日から横浜のクラブチームで誰よりも速く走れたそうです。普通校では、なかなか味わうことのできなかつた「勝つ」ことの楽しさを知ることができ、車いす陸上にどんどん夢中になっていったようです。そして、鈴木さんは、小学校 5 年生の時、初めて自分よりも速い人と出会います。それが、鈴木さんの師匠であるパラリンピアンの花岡伸和さんでした。出会った瞬間に、今後花岡さんと自分は何十年も付き合っていくことになると感じたそうです。

師匠である花岡さんの教えは、「命令」ではなく、常に「アドバイス」という形で伝えられたそうです。そのため、鈴木さんは師匠からの「アドバイス」を取り入れるか否かについて、いつも自分で考えて決断し、責任をもつことができたといいます。また、車いす陸上、そして花岡さんとの出会いを通して、鈴木さんは、「とりあえずやってみる」ことの大切さに気づいたそうです。自分に向いていることは、チャレンジしないとわからないこと、どんなことでもチャレンジしてみると新しい発見があることを繰り返し力説され、講演を終えられました。

公演後の質疑応答では、生徒から「日常生活で大事にしていること」について質問がありました。鈴木さんは、何をするときでも楽しんで行うことを大切にしていると答えられました。

午後には、甲佐町教育委員会主催で、甲佐町の公立校（小・中・高）に務める教員を対象とした教員セミナーを開催し、鈴木さんと教員とのディスカッションが行われました。

セミナーの中で、鈴木さんから、車いすマラソンでは、常にライバルとの駆け引きがあり、42km はあっという間で、完走後に疲れたことがないという話がされた時には、会場から驚きの声があがりました。他にも、車いす陸上のトレーニングについては、方法論が確立されていないため、師匠と自分の考えで試行錯誤しながらメニ

ューを作成していることを話されました。

最後に、パラアスリートとして、子供たちに伝えてほしいことは何かという質問がありました。鈴木さんは、障害者スポーツを障害者「の」スポーツではなく、1つのスポーツとして観てほしいと訴えました。そして、インターネットを通じてでも良いので、障害者スポーツの観戦をさせてあげてくださいとお話されました。

セミナーの終了後には、教員たちが、鈴木さんと競技用車いすを囲み、多くの質問が交わされました。初めて競技用車いすを見る先生方が多かったため、活発な議論がなされ、大いに盛り上がる様子がみられました。

6 講演およびセミナーの様子



【講演する鈴木さん】



【鈴木さんに質問する生徒】



【生徒代表の挨拶】



【集合写真】



【教員セミナーの様子】



【セミナー後競技用車いすについて質問する先生たち】